

『白い人とインディアンの酋長とケビン・コスナーと安全大会と30キロウオーク』の関係

『父は空 母は大地』そして 未来に生きる すべての兄弟たちへ

1854年 アメリカの第14代大統領フランクリン・ピアスはインディアンの土地を買収し居留地をあたえると申しでた。

1855年 インディアンの酋長シアトルはこの条約に署名。これは シアトル酋長が大統領に宛てた手紙である。

はるかな空は 涙をぬぐい きょうは 美しく晴れた。あしたは 雲が空をおおうだろう。けれど わたしの言葉は 星のように変わらない。ワシントンの大酋長が土地を買いたいといってきた。どうしたら 空が買えるというのだろうか？そして 大地を。わたしには わからない。風の匂いや 水のきらめきをあなたはいったいどうやって買うというのだろうか？松の葉の いっぱん いっぱん 岸辺の砂の ひとつぶ ひとつぶ 深い森を満たす霧や 草原になびく草の葉葉がけで羽音をたてる 虫の一匹一匹にいたるまですべては わたしたちの遠い記憶のなかで神聖に輝くもの。

わたしの体に 血がめぐるように木々のなかを 樹液が流れている。わたしは この大地の一部で大地は わたし自身なのだ。

香りたつ花は わたしたちの姉妹。熊や 鹿や 大鷲は わたしたちの兄弟。岩山のけわしさも 草原のみずみずしさも小馬の体のぬくもりも すべて おなじひとつの家族のもの。川を流れるまぶしい水は ただの水ではない。それは 祖父の そのまた祖父たちの血。小川のせせらぎは 祖母の そのまた祖母たちの声。湖の水面にゆれる ほのかな影は わたしたちの 遠い思い出を語る。川は わたしたちの兄弟。渇きをいやしカヌーを運び 子どもたちに 惜しげもなく食べ物をおくる。だから 白い人よどうか あなたの兄弟にするように川に やさしくしてほしい。空気は すばらしいもの。それは すべての生き物の命を支えその命に 魂を吹きこむ。生まれたばかりのわたしにはじめての息を あたえてくれた風は死んでゆくわたしの最期の吐息を うけいれる風。だから 白い人よどうかこの大地と空気を 神聖なままに しておいてほしい。草原の花々が甘く染めた風の香りを かぐ場所として。ひとつだけ 確かなことはどんな人間も 赤い人も 白い人も わけることはできない ということ。

わたしたちは結局 おなじひとつの兄弟なのだ。わたしたちが 大地の一部であるようにあなたがたも また この大地の一部なのだ。大地が わたしたちにとって かけがえがないようにあなたがたにとっても かけがえのないものなのだ。だから 白い人よ。わたしたちが 子どもたちに 伝えてきたようにあなたの子どもたちにも 伝えてほしい。大地は わたしたちの母。大地にふりかかることは すべて わたしたち大地の息子と娘たちにも ふりかかるのだと。あらゆるものが つながっている。わたしたちが この命の織り物を織ったのではない。わたしたちは そのなかの 一本の糸にすぎないのだ。生まれたばかりの赤ん坊が母親の胸の鼓動を したうようにわたしたちは この大地をしたっている。もし わたしたちが どうしても ここを立ち去らなければ ならないのだとしたらどうか 白い人よ わたしたちが 大切にしようにこの大地を 大切にしてほしい。美しい大地の思い出を 受けとったときのままの姿で 心に 刻みつけておいてほしい。そして あなたの子どもも そのまた 子どもたちのためにこの大地を守りつづけわたしたちが愛したように 愛してほしい。いつまでも。どうか いつまでも。

絵本『父は空 母は大地』(寮美千子・編訳 篠崎正喜・画 パロル舎刊)より1部抜粋

[seattle.html](#)

↑皆さんこんにちは。以上の文章は昔、インディアンの酋長がアメリカの大統領に宛てて書いた手紙の一部なのですが、どうも福島に住む方たちが東電さんや日本の首相に向けて書いた手紙のように読めてしまいます。

今、我々日本人はみんなインディアンの酋長と白い人の混血のような存在で、これからの日本を『白い人路線』で行くのか『インディアンの酋長路線』で行くのか、はたまたこのまま混血でいくのか喧々諤々の議論がなされているのだと思います。そんな中、ホイットニー・ヒューストンの訃報が流れ、久しぶりにケビン・コスナーの存在をTV画面で発見しました。映画『ボディガード』ではブラッド・ピットやジョージ・クルーニーでは出せない、感情を抑えた演技とシベリアンハスキーのような鋭い眼光と高潔さを感じさせ、すごい俳優だと思っていたのになぜいまアメリカ社会で受けていないのか？

独断で推測します！それは先ほどの日本の行く末と同じように、これからのアメリカ社会を『白い人路線』で行くのか『酋長路線』で行くのかの違いに起因しているのだと思います。アメリカ社会はまだまだ『白い人路線』で世界を引っ張っていかようとしています。しかしケビン・コスナーが映画の中で表現してきた世界は『酋長路線』だからではないかと思えます。

『ダンス・ウィズ・ウルブズ』はまさにケビン・コスナーがインディアン化していく話ですし、ケビン自体も祖先にチェロキー族インディアンの血が混ざっていると告白しています。『ダンス・ウィズ・ウルブズ』を観たことがなければ『ラストサムライ』を思い浮かべてもらえばいいです。『酋長路線』とは『侍路線』と同義語で、どちらも外的世界を満たすより内的世界を満たすことを重視している路線なのです。そういう観点からみると『リベンジ』なんかも尾上一刀や座頭市的な寡黙さと執念を感じさせてくれます。

ケビン・コスナーは白い人路線のハリウッドで一線を画する俳優といえます。

だからこそアメリカ社会の中でいまいち受けていない。一気に妄想してしまいました(笑)！

宇宙は絶え間なく生成発展拡大しているといわれていますし、今こうしてパソコンを打ちながら対立思考をめぐらすことができるのも文明が発達してきたおかげですので『白い人路線』自体が悪いわけではないと思います。問題なのはバランス。バランスが崩れること。回転体のバランスを修正して振動を抑えることが仕事の我々は、常日頃から、バランスのとれた回転体の静かで美しい様子を見ているので体で何か大切なことが分かっているはずで。

3. 17は以前、テクアの安全のバランスが崩れた教訓の日です。安全の教科書によると『人間の行動特性の三悪』と呼ばれている行為があります。『錯誤』『不注意』『横着』です。だれにでも平等に神様が与えてくださっています。

しかしこれらを野放しにしているとどんどん人としてのバランスを崩れていきます。毎年、この時期に安全大会を開き、原点に戻り、バランスを取り直します。今年は3月18日(日)開催です。

講演会講師はブランディングの天才、サムライ日本総合プロデューサー安藤竜二さんです。

『安全作業』と『侍』の関係性を天才の目から語っていただきたいと思います。

あともう一つ、3. 11は昨年、日本の安全のバランスが崩れた教訓の日です。

あのどす黒い水に東北が呑み込まれた悔しさをいつまでも忘れないよう、安全の転ばぬ先の杖のない設備の無力さをいつまでも忘れないよう、日本人としてリベンジの気持ちを込めてチャリティー30キロウオークを実施します。4月10日(火)AM6時30分テクア技研出発です。参加費はお気持ちを東北復興の募金箱にお入れください！父なる空を仰ぎ、母なる大地を踏みしめる30キロウオーク！恵みの温泉も待ってます！！

父は空 母は大地

